



## 香港人が見た日本

その③

香港の人たちが日本語で書いた作文をお届けするこのコーナー。今回は、香港大学日本研究学科の四年生のケリー・モックさん。二〇五年秋から二年間、慶應義塾大学に留学し、八月に香港に戻ってきたばかりです。

### 「手作りの温もり」

#### 莫敏儀 ケリー

この八月、香港大学・東京大学合同プログラムに参加し、シティースーパー尖沙咀店を見学する機会があった。一年ぶりに行く、雑貨の売場「Manual Factory」という新しいギフトセンターが設置されていて前より楽しくなっていた。そこは様々な手作りコーナーがある。万年筆が置いてあり、お客様は自由に使ってカードや手紙を書くことができる。ラッピングコーナーが設けられ、革のパッケージも売られている。自分の好みで独特なプレゼントを作り、送る相手に気持ちを伝えられる。

こうした売り場は香港ではまだ珍しい。なので、そこに行くときすでに「日本らしさ」を感じ、日本のことを思い出した。例えば、「ロフト」という店には、デジタルカメラのセルフプリント機、手紙、封筒、テープ、カードなどの素材のコーナーがあ

った。私は手作りが大好きで、いつも家族や友たちにカードを描いたりする。そこへ行くたびに「素材をたくさん買って作りたい」と思う。しかし、そうした店は、香港にまだ少ない。

去年日本で留学していた頃、文具店で7か月間アルバイトしていた。日本の文具についてたくさん学ぶことができた。手書きや手作りするための文具は様々あり、目が釘付けになるほどきれいだった。香港も東京もテンポが急速な大都市だが、日本人が手作りを大事にすることは素敵だ。作る人も、もらった人も優しい気持ちになれる。

一方、香港でも手作りはこれから流行するようになる気がする。ネットでは革製品、銀細工、ケーキの教室をよく見かけるが、店舗は主にビルの上の方にある。高い賃貸料が原因で、路面店を経営するのは難しいだろう。

シティースーパーのManual Factoryは、お客様の評判がいいと聞いた。香港でこのような空間がもっとあれば、忙しい毎日の中の小さな幸せになると思う。

